

平成22年度後期  
授業改善アンケート 質問項目

		no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ~ 十分確認した
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ~ 取り組んだ
		3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ~ 良好
		4	授業外で自主的な学習をしましたか	しなかった ~ 十分した
授 業	内 容	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ~ シラバスに沿っていた
		6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ~ 十分理解できた
	教 え 方 等	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ~ 明快
		8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ~ 聞き取れた
		9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
		10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ~ 良好	
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ~ 揃っている	

1.概評

12の質問項目のうち、No.2・3・4の3項目は、全学平均と同数値、その他9項目は上回った数値となっており、概ね良好と言える。0.2ポイント上回っている項目も2項目（No.5・10）あり、学科教員が綿密に授業計画を立て、教材に工夫を凝らしたことが、学生から評価されたものと考えられる。

良好であった前年度後期との比較においても、ほぼ同様の数値が得られており、引き続き良好な授業運営がなされていると言える。

3.0未満の科目も減少し、また今年度前期まで懸案となっていた自主的な学習の徹底についても、今までで最高の数値となっている。学生への意識付けが浸透しつつあることが伺え、これについては今後も手綱を緩めることなく、取り組んで行く必要がある。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	8	27	60	[学生] 学科平均という観点で言えば、前年度後期との比較においては現状維持もしくは若干の向上にとどまる。 しかしながら、得点分布では学科内回答の中位回答（3.5以上4.0未満）および、上位回答（4.0以上）の向上が、No.1・2・4に見られた。授業内での動機付けが適切に行われている成果と考えられる。特に、No.4の自主学習に関しては、平均点では前年度後期より0.1ポイント、今年度前期よりは0.2ポイントの向上であるが、4.0以上となった科目数は、前年度後期・今年度前期より、ともに13科目増と、大幅に向上している。 シラバスの確認の徹底について（No.1）、下級学年科目にやや数値の低い科目が偏っているので、周知をはかりたい。
2	4.0	0	0	0	2	39	54	
3	4.3	0	0	0	0	5	90	
4	3.7	0	0	4	20	43	28	
5	4.1	0	0	0	1	31	63	[授業[内容]] 平均点においては前年度後期との差は、ほとんど見られない。しかしながら、得点分布では学科における下位回答（3.5未満）が減り、底上げがなされ、学科として均質な授業がなされていると言える。 No.5に関しては、受講人数の多い授業に下位回答がやや偏る傾向にある。
6	4.0	0	0	1	6	36	52	
7	4.2	0	0	1	4	28	62	[授業[教え方等]] 平均点においては、前年度後期との比較ではほぼ同数値、今年度前期との比較では、No.7・8・9・10ともに+0.2もしくは+0.1ポイントの向上が見られる。 得点分布においては、学科の上位回答（4.0以上）が全体的にやや減り、中位回答（3.5以上4.0未満）が増えている。No.1～4において、授業に対する取り組み、姿勢が向上した分、学生の要求も厳しくなっていると考えられる。必修科目や下級学年の科目に下位回答が散見されることから、後期にかけて難易度が増したことも理由の一つと言えるのではないか。進度や理解度を向上させるための補助教材等、工夫をはかる必要がある。
8	4.3	0	0	0	1	20	74	
9	4.0	0	0	0	5	37	53	
10	4.2	0	0	0	1	25	68	
11	4.2	0	0	0	1	17	77	[環境・設備等] No.11 については、前年度後期・今年度前期と同様の数値で、概ね良好と言える。 No.12 については、今年度前期より、平均点では+0.1ポイントの向上にとどまるが、得点分布では上位回答（4.0以上）が15科目増と大幅な向上を見せている。これについても下級学年科目に低い数値が見られるので、周知を促したい。
12	3.9	0	0	0	4	53	38	

### 3. 今後の方針

- 向上の見られた項目(特に自主的な学習)については、学生にもホームルーム等で周知し、いっそうの学習意欲の充実を期待し、奨励、徹底をはかっていく。
- 下級学年対象の科目において、シラバスの確認、参考図書の利用に関して、低い数値が見られたので、意欲の喚起とともに、その必要性・重要性を各科目で繰り返し伝えていくことを徹底したい。学寮などでの、上級生との接触機会を有効に利用することも視野に入れて、指導していきたい。

1.概評

学科平均が全体平均より上回っているものが 12 項目中 6 項目 (No.5, 6, 8, 9, 10, 12)、同じ数値が 3 項目 (No.1, 7, 11)、そして下回っているものが残り 3 項目 (No.2, 3, 4)であった。全体的に見ると今学期の評価は大変良好と言えるかと思われるが、引き続きより改善に努める必要のある項目も認められる。

【学生】

4 項目中 3 項目が、全体平均より下回っているという残念な結果である。学生に対しては授業内外でのより自主性を求める指導と、教員に対しても授業内外での学生への繰り返しの指導を依頼したいと考える。

【授業【内容】】

2 項目とも、全体平均より上回っている。比較的高い評価を得ることができており、学生のニーズや期待値と合ったのではないかとと思われる。

【授業【教え方】】

4 項目の中で 1 項目のみを除いて、全体平均より上回っている。授業公開等による教員の FD 活動への取り組みの成果によるものと思われる。

【環境・整備等】

2 項目のうち、1 項目は全体平均を上回り、もう 1 項目は全体平均と同じ数値と言うことで、比較的高評価であった。学習環境の評価が比較的低い結果が続いているので、今後更にこの点の改善を進めていく必要があるかと思われる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	0	2	25	48	40	【学生】 ・No.1 は、学科平均と全体平均が同じ数値であった。また、前年度と比べても同じ数値になっている。シラバス確認の指導を求めて行きたい。 ・No.2 は、学科平均が全体平均よりまだ 0.1 ポイント低い結果であった。前年度と比べると同じ数値である。学生の積極性を引き出す授業展開の検討を更に進めたい。 ・No.3 は、全体平均より 0.2 ポイントも低い。昨年度とは同じポイントであるが、全体的に学生の出席を促す指導を更に続けたい。 ・No.4 は、全体平均より 0.1 ポイント低くなっているが、昨年度とは同じポイントである。全項目の中で最も低いポイントとなっているので、如何に授業外での自主学習を引き出すようにするかを検討したい。
2	3.9	0	0	0	8	55	52	
3	4.1	0	0	0	0	28	87	
4	3.6	0	0	6	25	67	17	
5	4.0	0	0	0	4	43	68	【授業【内容】】 ・No.5 は、全体平均よりも 0.1 ポイント高い結果となっている。昨年度よりも 0.2 ポイント上がっている。約 60% が 4 ポイント以上であるという良い評価を得ている。 ・No.6 は、全体平均よりも 0.1 ポイント高い結果であり、昨年度よりも 0.1 ポイント評価が上がっている。概ね良好と言える。
6	4.0	0	1	1	8	45	60	
7	4.1	0	0	2	9	29	75	【授業【教え方等】】 ・No.7 は、学科平均と全体平均が同じ数値であった。また、前年度と比べても同じ数値になっている。概ね良好と言える。 ・No.8・9・10 の 3 つの項目は、全て全体平均よりも 0.1 ポイント高い結果で、昨年度よりも 0.1 高い評価となっている。概ね良好と言える。
8	4.2	0	1	0	7	25	82	
9	4.0	0	0	2	11	30	72	
10	4.1	0	0	1	7	31	76	
11	4.1	0	0	1	7	32	75	【環境・設備等】 ・No.11 は、学科平均と全体平均が同じ数値であったが、前年度と比べては 0.1 ポイント上回っている。学生数と教室の学習環境がうまく合ったと言える。 ・No.12 は、全体平均よりも 0.1 ポイント高い結果で、昨年度よりも 0.1 高い評価となっている。概ね良好と言える。
12	3.8	0	0	0	15	71	29	

### 3. 今後の方針

- 全体的に見ると、前年度に比べるとポイントが上がった項目が 12 項目中 7 項目 (No.5,6,8,9,10,11,12)あり、半分以上の項目で改善が認められた。これらの項目は、概ね今回の全体平均よりも高い評価を得ているので、良い傾向であるかと思われる。同時に、更なる授業の質や内容の向上をめざして、引き続きこれらの項目で高評価を得た理由・原因を明確にする検証を行いたいと考える。
- 上記の 7 項目以外の項目の中では、特に[学生]に関する 4 項目 (No.1,2,3,4)のポイントが低いのが際立っている。また、No.7 の質問(「説明が明快でしたか」)に関しては、前年度と同じポイントであった。これらの項目は改善をめざして、大学の FD 活動に加えて勉強会や授業公開等の学科内での FD 活動にも積極的に取り組みたいと考える。

1.概評

後期開設科目のうち、63 科目でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が 3 (No.3, No.9, No.10)、全体平均と同じである項目が 7 (No.1, No.5, No.6~No.8, No.11, No.12)、やや下回る項目が 2 (No.2, No.4)であった。この結果、学生の出席率は良く、また授業は問題なく実施されているが、問題点として、学生の自主的な学習や積極的に授業に取り組む姿勢が弱いことがわかる。本学科の長年の懸案でもあり、改善を図りたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	0	0	9	34	20	[学生] 本学科の学生は、No.3 にみられるように、出席状況は良い。しかし、No.2とNo.4にみられるように、授業に積極的に取り組む姿勢や自主学習が弱い傾向にある。しかし、この点は前期と比べると、ともに 0.1 ポイントあがっており、改善の兆しがみえているのか、今後も注視したい。 この問題点の対策として、1 年生必修の歴史文化基礎で、全員に課題をだし、自主的な研究をするように指導していることを継続すること。また 2 年生以上の学生に対しては、授業担当の教員に自覚していただき、授業の工夫や課題等をだし、授業外での学習を進めるように、指導していただく。 No.4 のポイントが低かった科目は必修科目であるため公開授業を通して検討したい。
2	3.9	0	0	0	5	34	24	
3	4.4	0	0	0	0	4	59	
4	3.5	0	0	2	22	34	5	
5	3.9	0	0	0	6	37	20	[授業[内容]] 全体平均と同じであり、前期と比べると 0.1 ポイントあがっている。概ねシラバスに沿った授業であり、内容的にも問題がない。 No.6 でポイントが低かった科目は 2 つあり、ともに必修科目であった。公開授業を通して検討したい。
6	3.9	0	0	0	10	24	29	
7	4.1	0	0	0	5	17	41	[授業[教え方等]] 前期と比べるとすべての項目でポイントをあげており、概ね問題はない。 No.8 でポイントの低い科目は、受講生が 100 名を超える必修科目であることも一因かもしれない。 No.9, No.10 でポイントの低い科目は、必修科目であり、大人数での授業工夫が必要と考える。後ろの席に座ると板書が見えにくい、あるいはパワーポイントが見えにくい等の影響があるのではないか。その点も含め、担当教員に授業工夫をお願いしたい。
8	4.1	0	0	1	3	13	46	
9	4.0	0	0	0	5	27	31	
10	4.1	0	0	0	3	19	41	
11	4.1	0	0	0	3	20	40	[環境・設備等] 前期と比べると No.11 は同じ、No.12 で 0.1 ポイントあげている。これは、学生に自ら必要文献を図書館に申し込むように指導した結果のあらわれと考えられる。継続的に指導していきたい。
12	3.7	0	0	0	9	43	11	

### 3. 今後の方針

●例年と同じことの繰り返しになるが、本学科の学生は授業をまじめに取り組むが、授業以外の学習に関しては、積極性に欠ける傾向にある。この点を前年度前期と比較すると、ともに0.1ポイントあがっており、改善の兆しがみえてきたといえるかもしれない。

今後のこの点に関する長期的な取り組みとして、

①1年生の必修授業(『歴文基礎』)で取り組む、それぞれのテーマについて自分で野外調査し、その調べたことを整理し、授業で報告するというスタイルを徹底していき、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養いたい。

②2年生以上の学生に対しては、ゼミを通じた夏休みの研修旅行、昭和女子大学文化史学会への参加、学生編集の『れきマガ』を通じた活動から、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養いたい。

短期的な取り組みとして、

①各授業担当者に授業中に次回の課題をだすなどの工夫をお願いする。

●本学科では、必修授業の公開を通して、学科全体で授業運営の改善をはかっていきたい。

1.概評

平成22年度は22項目中、9項目の数値が前学期を上回った。今年度は7項目の数値が前年度を上回った。学期ごとに改善がみられるのは各教員が前学期の授業改善報告の結果をもとに授業改善に取り組んだ証といえよう。授業の内容および教え方について、6項目中すべて全体平均を上回っている。今後も授業の理解を深める工夫を重ねていきたい。一方、環境、設備については2項目とも全体平均よりも低い評価だった。できるだけ、環境の整備に努めたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	3	2	16	46	36	[学生] 前学期に懸念していたシラバスの確認についても、必修授業で好ましい傾向がみられた。引き続き注意喚起に努めたい。しかし、出席に関しては昨年度を0.3ポイントも下回り、全体平均よりも低い。学生の意識を改善するように学科で取り組むことにする。
2	4.0	0	0	0	2	39	62	
3	4.2	0	0	0	2	17	84	
4	3.7	0	0	6	19	44	34	
5	4.0	0	0	0	7	33	63	[授業[内容]] 語学の基礎科目が多いにも関わらず大変良好である。さらに充実させるように学科全体で話し合っていきたい。
6	4.0	0	0	0	6	34	63	
7	4.2	0	0	0	2	22	79	[授業[教え方等]] 比較的満足度が高かった。今後もこれを維持できるように努める。配布資料等の質問に対する評価は語学系のクラスでの教材研究の成果といえよう。
8	4.3	0	0	0	1	22	80	
9	4.1	0	0	0	6	31	66	
10	4.2	0	0	0	2	26	75	
11	4.3	0	0	0	1	9	93	[環境・設備等] 今後も新規科目において図書の実用をはかりたい。
12	3.8	0	0	0	7	63	33	

### 3. 今後の方針

今後も各項目でポイントを前学期よりも上回るように努力を続けたい。本年度は新入生が定員増となったため、語学クラスの教室環境が整わなかったのは残念である。今後は、柔軟に対応できるように備えていきたい。また、授業内容に関する工夫や効果的な資料作成については、教員間の情報交換を綿密にしたい。学生の出席状況に関しては、基礎ゼミなどを通じて学生の意識向上に努めたい。

1.概評  
 ・これまでとほぼ同じ値であり、全体としては良好な状況が続いている。が、今後も引き続き、授業の改善に取り組んでいきたい。  
 [学生]に関しては、これまでとほぼ同様の値であるが、大学全体に比べ授業外での自主的な学習の値が低い。授業内・外で積極的かつ自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。  
 [授業・内容]は、前回と同じ値であり、大学全体とほぼ同じ値であった。概ね、良好であると言える。  
 [授業・教え方]は、ほぼ同じとはいえ、全体平均を下回っている。授業方法の改善への努力が教員に求められている。  
 [環境・設備等]のうち、部屋の広さに関しては、学生数の増加に伴い、受講者数と教室の広さとのバランスを取ることが、年々むずかしくなっている。図書館の蔵書への評価は必ずしも高くないが、教員が参考書籍の購入を積極的に図ると共に、学生に広報することで、図書館の活用をはかっていきたい。

2.各項目の評価  
 各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	0	2	7	28	15	[学生] これまでとほぼ同じ値であり、自主的な学習(No.4)に関しては「課題やレポート等への取り組みを自主的学習と捉えるように」との説明を、今回から行ったためか、0.2ポイント上昇した。が、大学全体の値に比較すると、0.3ポイント低い。授業への積極的な取り組み及び授業外での学習をうながしていきたい。 シラバスの確認は、必修の授業科目では3.2と、かなり低いことから、履修内容の確認をうながしていきたい。 出席状況の評価(No.3)については、これまで同様高い値となっている。
2	3.8	0	0	0	6	24	22	
3	4.4	0	0	0	0	1	51	
4	3.4	0	1	5	16	18	12	
5	3.8	0	0	0	7	29	16	[授業[内容]] 前回と同じ値であり、大学全体とほぼ同じ値であった。概ね、良好であると言える。
6	3.7	0	0	2	11	24	15	
7	3.8	0	0	2	8	24	18	[授業[教え方等]] 前回とほぼ同じ値であるが、大学全体より下回っている。各教員において、授業公開の意見交換を踏まえるなどし、改善への努力をお願いしたい。
8	4.0	0	0	1	4	19	28	
9	3.8	0	0	2	9	23	18	
10	3.9	0	0	1	4	25	22	
11	3.9	0	0	0	9	20	23	[環境・設備等] 学習環境、図書館の蔵書に関しては、前回とほぼ同様の値であった。学生のニーズにあわせて、書籍の購入を図っていきたい。
12	3.6	0	0	0	20	30	2	

### 3. 今後の方針

- 学生の授業への取り組みは良好であるものの、大学全体に比べ、やや低いため、具体的な課題を提示するなどしての授業外学習を、また授業改善を通して、学生の積極的な授業への取り組みを図っていきたい。
- シラバスの確認は、選択科目に比べ必修の授業科目で低くなっていることから、たとえ、必修科目であってもシラバスを確認することの意義を、履修ガイダンス等で指導していきたい。
- 図書館蔵書に関しては、教員が担当授業科目における参考書籍を積極的に購入し、併せて学生の広報を行うことで、学生が図書館をより活用できるよう図っていきたい。

1.概評

総じて評価の数値が上昇している。これは、シラバスの内容をUPSHOWAで確認できるようになったことや、第1回目の授業でシラバスを配布して説明をし、授業の学問的な位置づけを示していることも奏功していると考えられた。本学科は学生の出席状況について良好である。授業への積極性や授業外での自主的な学習についても、本年度の評価は上昇した。今回のアンケート結果によって、科目ごとの関係を明確にし、その科目の授業運営について展開の符合を示すことがより重要であると認識できた。周知を図り、努力につなげたい。図書の充実を進めるとともに、それを生かした研究の深まりを示唆して、学生自らが今後の体系的な学問構築を目指せるよう指導すべきと料する。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	0	3	25	87	31	[学生] no.1については、学科平均が上昇するとともに、4以上の評価が大幅に増加した。 no.2については、学科平均が上昇するとともに、4以上の評価が増加した。 no.3については、昨年度と同様に4.2であるが、③以上3.5以下という評価が今年度から登場した。 no.4については、昨年度の3.4と比し、0.2上昇した。 上記から、学生の積極的な授業参加が評価される。 なお、シラバスの確認を充実させて事前の意欲向上につなげる必要がある。この対策として、科目の位置づけを明確化するべきものと思料する。
2	3.9	0	0	0	10	61	75	
3	4.2	0	0	0	5	16	125	
4	3.6	0	0	3	66	53	24	
5	3.8	0	0	0	14	68	64	[授業[内容]] no.5については、学科平均が0.2上昇した。 no.6については、学科平均が0.1上昇した。 上記から、シラバスに沿った授業運営について改善が見られた。結果、授業内容の理解が進められたものと考えられる。科目のばらつきも収束してきているので、引き続きの努力が有効と思料する。
6	3.9	0	0	0	20	73	53	
7	4.0	0	0	2	10	60	74	[授業[教え方等]] no.7については、学科平均が0.1上昇した。 no.8については、学科平均が0.1上昇した。 no.9については、昨年度と同様であった。 no.10については、昨年度と同様であった。 以上より、説明の明快さとその発話の聞き取りやすさは向上している。板書等を用いた視覚的構造化の工夫と配布物での補足は、近年、定着しつつあるものと考えられる。とりわけ初学者向けの授業などでは、今後さらにこの努力を続け、より一層の成果を上げるべきものと思料する。
8	4.1	0	0	0	10	60	76	
9	3.8	0	0	4	13	74	52	
10	3.9	0	0	0	15	68	63	
11	4.0	0	2	0	6	58	80	[環境・設備等] no.11については、学科平均が0.1上昇した。 no.12については、学科平均が0.1上昇した。 以上より、環境・設備について評価の数値が上昇しつつある。 なお、図書の充実については、昨年度評価が低下したのもでもあり、引き続きの課題と思料する。
12	3.7	0	0	2	46	73	25	

### 3. 今後の方針

昨年度までの課題を引き継ぎながら、今般のアンケート結果の分析をふまえて、以下のように方針を立てる。

- 授業内容の事前確認を推進する。シラバスの充実を進める。オリエンテーション・ガイダンスにおいて、履修の原則、方法と意義を説明し、一層の向上を図る。
- 学生の出席状況について良好な状態を維持する。このためにクラスアドバイザーが中心となって指導を徹底する。授業への積極性や自主的な学習については、多人数での授業で評価の数値が低い。環境面の改善策(受講人数と教室の広さの適正化)を検討し、必要に応じた受講調整などを行う。
- 履修科目とその内容の位置づけについて、適切な説明とフィードバックの充実を目指す。本学科で開講される科目の多くは法改正によるカリキュラム移行の影響を受けるため、特にこの点は重視されるべきである。大学のFD活動をふまえ、授業運営や方略の工夫を整える。ビデオ・DVDなどの視聴覚教材や補足的資料の配布を充実させる。教員間の情報交換等を密にして努力する。
- 学習環境の充実を図る。教室の広さと受講者数のアンバランスが引き続きの課題である。初回の授業開始後、必要に応じて教室変更の可能性を探り、柔軟に対応する。
- 図書の実質を図る。非常勤講師の協力も求め、関連分野の図書をそろえて役立てる。

1. 概評

今年度は、学生自身への評価（1-4）が全体的にアップし、No.5（授業はシラバスに沿って行なわれましたか）を除き、教員への評価（6-10）はダウンしている。No.5 は 0.2 ポイント上昇しているが、それは昨年度以来シラバスの作成がより厳しく求められるようになったこと及び教員全体の努力によるものだと思う。学生自身への評価が改善されていることについては、引き続き、学生たちを励まし、教員への評価が下がっていることについては、改善できるよう心がけていきたい。学習環境の改善には、少人数クラスの維持が重要であると考えている。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	4	20	47	35	[学生] 「出席状況の評価」（3）も含め、全体的に前年度同期より高いか、同じである。特に、シラバス内容の事前確認（1）は前年度同期より、0.3 ポイント高く、同年前期の大学全体の平均値より 0.1 ポイント高い。これは大学全体において学生のシラバス確認が改善されていることとも関係があり、教員全体が受講生にシラバス確認を強く求めるようになったことと関係があると思う。 学生の自己評価は全体的によく、とくに気になるようなことはないと考えている。
2	3.9	0	0	0	11	47	48	
3	4.2	0	0	0	0	17	89	
4	3.6	0	0	4	34	54	14	
5	3.9	0	0	0	7	53	46	[授業[内容]] 全年度同期に比べ、No.5 は 0.2 ポイント改善されている。これは受講生のシラバス確認が改善されていることとも関係があり、教員がシラバスに沿って講義していることを意味しているのではないかと思う。No.6 は学科の前年度同期及び、大学全体の同年前期と同じ値であり、学生の授業の理解にあまり変化がないこと意味するものである。
6	3.9	0	0	0	10	47	49	
7	4.0	0	0	1	10	34	61	[授業[教え方等]] 説明の明快さとかかわるNo.7 とNo.8 はいずれも前年度より 0.1 ポイント下がり、板書、パワーポイント、配布資料などの効果（No.9 とNo.10）については前年度同期と同じである。 いずれにせよ、授業の教え方には改善の余地があり、今後の課題として取り組む必要があると考えている。
8	4.1	0	0	1	3	31	71	
9	3.9	0	0	1	10	40	52	
10	4.1	0	0	0	3	38	65	
11	4.1	0	0	0	6	28	72	[環境・設備等] 学習環境（No.11）は前年度同期より、0.1 ポイント下がり、クラスの人数が増えていることと関係があるのではないかと。参考書等の図書館での整備（No.12）は前年度同期と変わっていない。いずれの点についても改善の余地があると思う。
12	3.7	0	0	0	25	61	20	

### 3. 今後の方針

- ☆ シラバスの内容を受講前に確認せず、科目名だけを見て時間割に合わせて履修に臨んでいる学生が依然として多いが、Web 登録に慣れていくにつれて改善されていることは明らかである。今後は新年度の教務オリエンテーションや教員それぞれの授業でもシラバスの受講前確認をさらに促すよう心がけていきたい。
- ☆ 学生の授業外での自主的な学習は、アンケートの回答から見て改善されているようだ。それは昨年度から実施されたシラバスでの授業準備の指示による効果ではないかと考えているが、先生方にはそれぞれの授業で学生の授業外での自主的な学習をさらに勧めるよう工夫を続けていただきたい。
- ☆ 学生の出席状況への評価、教員の教え方、学習環境など、全体的にみて改善された項目が多いが、引き続き改善に努めたいと考えている。

1.概評

すべての項目について、前回に比してほぼ横ばいではあるが、ポイントの下った項目はなく、良好な評価を保っている。この状態を引き続き維持できるよう努めたい。

No. 1のシラバスによる授業内容確認については、前回より意識の高まった様子が見られ、授業担当者による学生への意識付けの効果があらわれてきたものと考えている。一方授業内容の理解や、授業の教え方の項目で、一部の授業に改善の余地がある様子が見受けられた。授業担当者の協力を得て一層の工夫をはかりたい。

さらに、教室環境の改善や参考資料の充実については、関連の部署と連携しながら、少しずつでも対応していきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	1	7	28	71	[学生] 授業内容のシラバスによる確認は、前回より 0.3 ポイント上昇した。教員による意識付けが実ったものと考えている。授業外の自主学習についてもわずかにポイントを上げたが、これは授業中に出された課題等も含んでおり、本来の意味の自主学習の習慣をつけるには、今一步の工夫が必要であろう。 授業への積極的な取り組みについて、また出席状況についての自己評価は前回に引き続き良好である。この状況を維持できるよう、引き続き授業内容の工夫と学生への指導に努めたい。また一方、データには表れてこないが、一部に怠学の兆候や欠席が目立つ学生が増えつつある。授業担当やクラスアドバイザーによる早めの対応を心掛けたい。
2	4.3	0	0	0	2	16	89	
3	4.6	0	0	0	0	3	104	
4	4.1	0	0	1	10	30	66	
5	4.1	0	0	2	3	28	74	[授業[内容]] 授業内容がシラバスに沿っていたか、内容が理解できたかについては、全体としては前回からほとんど変動がなく、良好な評価を得ている。しかし、内容理解については、わずかながら前回になかった低いポイントをつけた学生があり、個人面談等を通じて学生の様子に注意し、必要に応じて対応していきたい。
6	4.1	0	2	0	4	21	80	
7	4.2	2	0	0	8	13	84	[授業[教え方等]] 授業の教え方についての項目には、ポイントの変動がほとんどなく、おおむね良好であるが、授業によってポイントのばらつきがある。授業担当者の協力を得て、明快な説明や有効な機器使用、配付資料の充実をはかりたい。とくに機器の使用については、授業内容に応じた一層の工夫を、各授業担当の先生方をお願いしたい。
8	4.2	2	0	0	4	18	83	
9	4.1	2	0	0	10	25	69	
10	4.2	0	2	0	5	20	80	
11	4.2	0	2	0	4	22	79	[環境・設備等] 教室については、大人数の授業や演習等で特別な設備やスペースを必要とする授業については評価が低い が、全体的に 80 年館の学習環境に良好な評価がなされている。参考図書についても評価は低くはないが、不足は多くの授業担当者が感じており、引き続き図書館との連携のもと充実 に努めたい。
12	3.9	0	0	2	8	51	46	

### 3. 今後の方針

○授業評価については、前回に引き続き概ね良好な状態を維持している。とくに授業前のシラバスの確認については、前回よりも学生の意識が高まり喜ばしい。

○学科の特性上、明確な目標のもと着実な努力を続けている学生が多いが、一方で学生の多様化も進んでいる。国家資格としての教育職員免許状や保育士資格を受けることの意義を学生に認識させ、教員・保育士を目指すことの意味を問い直す環境の整備が必要と考える。

○学科定員増による学生数の増加(平成23年度で完了)に対応して、学生が免許資格の取得に過不足なく、希望する科目をできるだけスムーズに履修できるよう、コマ数や教室の確保に引き続き努めていく。平成23年度以降入学者のカリキュラムについては、学生個々の進路希望に応じた学修が可能となるようコース内容を変更しており、上記の問題を多少軽減できると考えている。

○環境・設備については、教室の良好な学習環境確保に引き続き努力するとともに、より効果的な資料や機器の使用について、引き続き教員間の情報交換による研鑽に努める。図書館との連携による図書資料の充実にも、引き続き力を注ぐ必要がある。

○学生生活の様々な面でのケアについては、クラスアドバイザーを中心に学科教職員全員で学生についての情報を共有しながら綿密に行っているが、個々の学生の卒業後の進路を見据えつつ、引き続き状況に応じたきめ細やかな対応に努めていく。

1.概評 全体と学科平均の比較では、出席状況、説明の明快さ、配付資料・教材、参考図書の整備の項目において学科が全体を下回る結果である。しかし H22 前期の学科平均値と比較すると、全項目のポイント数が上がっていることがわかる。特に演習科目では、自主的な学習の項目で評価が 4.5 を超えている科目が複数ある。それらの科目は他の項目も概ね高い評価が得られている。これらは演習科目では課題などが自主的な学習と認識されることが多く、その高評価が他の項目にも影響している可能性が考えられる。今後は大学での単位取得には授業時間外の学修が必要であることの理解を含め、講義科目でも学生の自主的な学習を促したい。

理数系科目については昨年度までと同様、全体的には評価が低い、幾つかの科目では高い評価を得ている科目もある。今後はそうした科目の授業運営上の工夫なども参考にしていきたい。参考図書の整備については昨年度同様評価が低く、引き続き各授業で図書館利用アドバイスなどを行っていききたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	21	87	38	[学生] 昨年度に比べると、同等または高い評価が得られている。特に自主的な学習の項目では 0.2 ポイント上昇した。積極的な授業への参加も 0.1 ポイントではあるが上昇していることを考えると、全般的に積極的に授業に取り組む学生が増えていると思われる。科目数の分布においても、ほとんどの科目が 3 以上の評価となっている。出席状況においては約 65%の科目が 4 以上の評価となっている。学科からの呼びかけ、各教員からの指導が一定の効果を得ていると読み取ることができる。今後もこの値以上の数値を保持できるよう、努力していきたい。
2	4.0	0	0	0	16	61	70	
3	4.1	0	0	0	2	50	95	
4	3.8	0	0	6	37	50	54	
5	3.9	0	0	0	15	77	55	[授業[内容]] 学科平均は全体平均と同じ値である。しかし昨年度の学科平均と比較すると 0.1-0.3 ポイント上昇している。授業内容の理解に関する項目で 3 未満となった 3 科目については、他の項目との明確な相関関係は読み取れなかった。個々の授業における事情を把握し、改善をはかりたい。
6	3.9	0	0	3	29	58	57	
7	4.0	0	0	2	16	60	69	[授業[教え方等]] これらの項目も昨年度に比べると数値が上昇している。科目数の分布でも 2 科目以外は 3 以上の数値となっている。3 未満の 2 科目はいずれも理数系の科目であり、話が聞き取れたか、板書や OHP、配付資料の項目でも低めの値となっている。授業内容が理解できないことが、全ての項目に影響していると考えられる。学習レベルによる受講クラス分け、視聴覚機器の有効利用等積極的に行っていききたい。
8	4.1	0	0	0	13	50	84	
9	3.9	0	0	0	18	78	51	
10	3.9	0	0	0	23	71	53	
11	4.1	0	0	1	15	55	76	[環境・設備等] 受講人数と部屋の大きさに関する項目については前回よりわずかが上昇した。ただし、参考図書の整備状況については相変わらず前回と同じ評価で、全設問中最も低い値となっている。教員による関連図書の推薦とそれらの紹介を積極的に行っていききたい。
12	3.5	0	0	3	61	69	14	

### 3. 今後の方針

全体の傾向として、今学期は複数の設問項目において昨年度より評価が上がっている。良好な状態が持続されていると言えよう。

特に出席状況、話が聞き取れたか、人数と部屋の広さの項目において、良い評価を得ている。学生自身の自主的な学習に関する項目も、数値自体は他の項目に比べるとやや低めだが昨年度の値よりは高くなっており、学生の授業に対する姿勢が積極的になってきていると思われる。また人数と部屋の広さ、話の聞き取りの項目の評価は、視聴覚設備の拡充や各教員の授業運営工夫の成果が現れている。これらの項目については、今後もこの状態を維持またはさらに効果的な方法を模索していきたい。

学科平均値が最も低い値を示したのは昨年度同様「参考図書が図書館に揃っているか」という項目であった。これからもより積極的に授業関連図書の推薦を行うと同時に、授業内で参考図書の紹介および図書館の利用について触れていくことが必要であろう。

学科の理数系科目については、依然として授業内容を理解できていない科目が複数ある。これらの科目は比例して授業の教え方等に関する項目も低い値となっている。対策として初年度教育の基礎科目においては、2年次以降の専門科目の基盤となる科目であることから学科としても様々な対応を試みてきた。レベル分けによる受講クラス、少人数授業のための科目増設などは一定の効果が得られている。しかし現在の入試形態では理数系が苦手な学生が入学できることから、学生間のレベル格差は相変わらず縮小されていない。またそれらの基礎科目が十分に理解できないまま上級学年に進み、再履修や他の専門科目での理解が難しいという事態も発生している。今後も視覚的な授業効果を考慮した授業運営や、予習・復習にも対応可能な教材の提供など学生の自主的な学習を促す方法を考えていきたい。

1.概評

本学科の主な学生は1,2年生であり、専門科目はほぼ全て資格必修もしくは領域必修科目となっており、学生による授業科目選択の余地はほぼ無い。この事が授業評価にも現れていると考えられる。

[学生]

シラバスの確認についての評価が特に低い。これはほとんど全ての授業が資格・領域必修であるため、選択の余地がほとんど無い事が影響していると思われる。

[授業]

授業内容に関する評価、特に授業外での自主学習の項目が低かった。これも選択の余地が非常に少なく、高校の延長的な感覚による事によると思われる。事前の情報提供など、自主学習を促す取組を進める必要がある。

[環境・設備等]

教室などの学習環境の評価は良いが、参考書等についての評価は低かったため、一層の充実が望まれる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	0	18	29	12	[学生] シラバスの確認についての評価が低い。これは授業がほとんど資格もしくは領域必修であり、クラス分けされた時間割に従って履修しているため、確認の必要性を感じないためであると思われる。授業への出席についての評価は高く、生活の規則性が保たれていると考えられる。これに対して、授業への積極性と授業外での自主学習の評価が低い事は、受け身の授業態度である可能性が高い。授業外での自主学習と共に、学習への積極的な取組み方などを、呼びかける必要がある。授業外での自主学習については、高学年では評価が高い事から、レポート作成時における関連情報探索などに対する考え方や方法についての情報提供なども有効な手段となると考える。
2	4.0	0	0	0	2	26	31	
3	4.5	0	0	0	0	0	59	
4	3.4	0	0	6	28	19	6	
5	3.8	0	0	0	8	33	18	[授業[内容]] 授業内容の理解については、科目によっては二極化する傾向が認められた。在学する学生は1,2年生である事から基礎的な科目郡であり、進度別クラスの導入などを検討する時期になっている可能性がある。
6	3.8	0	1	1	9	26	22	
7	4.0	0	1	0	12	11	35	[授業[教え方等]] 全体に平均的な評価であった。選択の余地が無い中であるが、授業への意識が維持されていると考えられる。今後の高学年の選択の授業に向けて、授業に対する意識の維持増進を計る必要があると考えられる。
8	4.1	0	1	0	5	15	38	
9	3.9	0	1	2	7	17	32	
10	3.9	0	0	1	6	20	32	
11	4.1	0	0	0	2	23	34	[環境・設備等] 教室設備についての評価は平均的である。しかし、参考資料については不十分な部分もあり、充実が望まれる。
12	3.7	0	0	0	22	24	13	

### 3. 今後の方針

現在の在學生は1,2年生が主である事から、授業選択の余地が非常に少なく、基礎的な科目群となっている。そのためシラバスの確認、授業や授業外学習への積極的な係わりが不十分な評価となっていると考えられる。高学年の選択性授業に向けて、授業への積極的な関与と自主的な学習意欲の形成を行うため、将来設計を含めた情報の提供を継続して進め、評価の向上に努力する。

1.概評

全体的な傾向としては、評価は非常に良好であると考えられる。現在の食物健康学専攻の学生は、3,4年の高学年であることから、履修についても将来展望も見据え、積極的に取り組む姿勢がうかがえた。

[学生]

高学年の学生のみであることから、シラバスの確認、授業への積極的な参加姿勢が見受けられた。

[授業]

授業内容、授業の教え方共に良好な評価であった。

[環境・設備]

多くの科目は健康デザイン学科に引き継がれることから、図書などの充実に努めたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	1	1	7	15	9	[学生] 将来展望を見据えた選択科目履修を行っている事もあり、シラバスの確認、積極的な取組、出席状況共に良好な評価であった。 ただし、一部の科目でシラバスの確認が行われていないと考えられるため、より一層、確認を促す事が必要である。また、自主的な学習において、若干低い評価でると共に、評価の二極化が認められる事から、レポート作成時における関連情報探索などに対する考え方や方法についての情報提供など、学外での学習を促す方策の充実が望まれる。
2	4.1	0	0	0	0	11	22	
3	4.4	0	0	0	0	2	31	
4	3.6	0	0	1	12	14	6	
5	3.9	0	0	0	3	16	14	[授業[内容]] 授業においては、シラバスとの整合性、内容の理解共に全学平均と同等もしくはやや高い評価となった。しかし、シラバスについては、確認を怠りながら、整合していないとの回答もあり、評価項目についても検討する必要があると考えられる。
6	4.1	0	0	0	3	12	18	
7	4.2	0	0	0	3	9	21	[授業[教え方等]] 全体的に高い評価であった。これは授業科目の専門性が高く、また選択の授業が多いため、学生の授業への意識も高いためであるとも考えられる。
8	4.3	0	0	0	1	11	21	
9	4.1	0	0	0	1	11	21	
10	4.2	0	0	0	2	4	27	
11	4.3	0	0	0	0	8	25	[環境・設備等] 教室設備についての評価は高い。しかし、参考資料については不十分な部分もあり、充実が望まれる。
12	3.9	0	0	0	3	19	11	

### 3. 今後の方針

昨年度に比べ、全体的に高い評価となった。授業への積極性など、学生の意識の高さが反映された結果とも考えられる。本専攻での一番大きな問題点は授業外での自主的な学習の評価が低い事である。資格必修科目、選択科目共に、事前の学習意欲を向上させるための情報提供などを継続して、評価の向上に努力する。

1.概評

設問共に概ね、前年度と同様な評価がなされている。管理栄養士資格取得を目的にしている学生達の共通の評価である。資格必修科目が多く、ほとんど選択の余地がなく、出欠席の取り方も厳しいので、授業の出席状況の評価は高くなっている。しかし、履修する科目が全学年共に決っているため、シラバスの確認などをせずに授業を受講し、学内の授業での取り組み方が、良好に対して授業外での自主的な学習が例年、低い値となっている。その評価を上げるためには、さらに教員の支援などで学生自身が授業外での自主的な学習ができるような取組を検討する必要があると思われる。また、年々、学生個々の基礎的な能力など差も大きくなって来ていると思われるので、個々の能力に合わせたきめ細かい指導も重要であると考え。学習環境は、良好と言えるが、参考図書等については、授業外での自主的な学習を促すためにも、より一層の充実が望まれる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	1	1	14	52	4	<p>[学生]</p> <p>例年、シラバスの確認の評価は低く、授業内容を確認せずに授業を受けている学生が多いと思われる。資格取得必修科目が多く、出席状況は、例年、高率である。ただ、出席状況が良好に比して、授業への取り組み方が若干低いことや、授業外での自主的な学習の評価が低い事は、教室での授業・授業外での学習問わず、受け身的な授業への姿勢の現われと考えられる。そのことから学生自らが能動的な学習態度を持つ事ができよう、学生の勉学への意識の向上を図ることができる取組を行う必要があると思われる。</p>
2	4.1	0	0	0	0	22	50	
3	4.6	0	0	0	0	2	70	
4	3.7	0	0	0	20	43	9	
5	3.9	0	0	0	5	44	23	<p>[授業[内容]]</p> <p>シラバスの確認や活用があまりなされていないため、シラバスに沿った内容かについては、低い評価となっている。内容の理解度については、学年差や授業形態によっても違う。高い専門的な能力を持ち、全員、国試合格を目指せるような学生を育成するためには、能力別クラス編成などを行い、実態に見合った授業運営を組み立てる事も検討していく必要があると思われる。</p>
6	3.8	0	0	0	10	34	28	
7	3.9	0	0	3	9	26	34	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>例年通りの評価が見られる。教え方の評価には、受講数と教室の広さ、授業で使用するAV教材などの使い方などにより変動がある。授業内容により興味を持たせ、理解を深めさせるような教え方を教員各自がさらに検討していく必要があると考える。</p>
8	4.0	0	0	0	8	24	40	
9	3.9	0	0	0	9	30	33	
10	4.0	0	0	0	4	32	36	
11	4.1	0	0	0	0	21	51	<p>[環境・設備等]</p> <p>学習環境については、例年と同様の評価である。授業・自主的な学習・卒研ゼミなどで専門書を利用する機会が多いので、専門領域によっては、不十分な点も多いと感じている。今後も教員からの推薦図書を大いに図書館に希望し、専門書等の充実を図ることを教員にもはたらきかけていきたい。</p>
12	3.7	0	0	0	10	50	12	

### 3. 今後の方針

栄養士養成施設であるので、決められているカリキュラムを大幅に逸脱することはできないので、学生自身もシラバスを確認することなく、授業に臨んでいることは常に予想されている評価となる。授業に対する取り組み方として出席率が高いことは評価されることであるが、出席している事が積極的に取り組んでいると思わないよう、学生には指導していくことが重要である。学生の意識の向上や決められているカリキュラムの中でも学生が自主的に学習を行う意欲、教職員における学生の学習意欲の向上への支援、環境整備など学科内のカリキュラムグループごとに話しあい、科会で意見を出し合い、より学生及び教職員共に成長していくように考えていく。

1.概評

前期と比較すると、多くの項目でポイントがあがっている。今回特に目立つのは、授業外で自主的な学習をした、という項目のポイントが上がったことである。「自主的な学習」に、「課題提出」が含まれることを明示したことで、ポイントが上がったのではないと思われる。

例年、あまり評価が上がらないのは、参考図書がそろっているか、という最後の項目である。積極的に図書館に推薦図書を依頼するだけでなく、学科でも図書をそろえることが必要と思われる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	10	52	45	[学生] 前期と比較すると、項目 2, 3 は変わらず、1, 4 は 0.1 ポイント挙がっている。前期よりもシラバスを確認する学生が増え、また授業外で自主的な学習をする学生が増加したことが分る。また、ポイントには反映されていないが、きちんと出席したと答えた学生が増えている。今後も、シラバス確認、出席、自主的な学習を、これまで以上に機会あるごとに学生に促すようにしていく。
2	4.0	0	0	0	3	52	52	
3	4.3	0	0	0	0	16	91	
4	3.7	0	0	5	29	44	29	
5	4.0	0	0	0	3	56	48	[授業[内容]] 前期と比較すると、項目5は、0.1ポイントあがり、項目6は変わらずという結果となった。今後も、継続して授業内容とシラバスとの一致をこころがけ、授業の目的をはっきりと示すようにしていく。
6	3.9	0	0	3	10	42	52	
7	4.1	0	0	1	6	37	63	[授業[教え方等]] 教え方についてであるが、項目 8, 10 は変わらず、項目 7 が 0.1 ポイント、項目 9 は 0.2 ポイント挙がった。今後も継続して、明快な説明と、効果的な板書、OHP、パワーポイントの使用を心がけ、授業内容をわかりやすく伝えるようにしていく。
8	4.1	0	0	0	4	29	74	
9	4.0	0	0	1	12	39	55	
10	4.0	0	0	0	8	34	65	
11	4.1	0	0	0	7	28	72	[環境・設備等] 前期から特に変動は見られなかった。ほかの項目と比べて、項目 12 がやや低いポイントとなっている。参考書等は、図書館だけでなく、学科でもそろえ、学生の学習環境をより整えていく。
12	3.7	0	0	0	24	68	15	

### 3. 今後の方針

真摯に評価内容を受け止め、教員ひとりひとりが、学期を重ねることによりよい授業を行えるように、工夫に努めていく。授業外で自主的な学習をした、という項目は改善されたものの、まだ5科目において、3未満というポイントとなっている。すべての授業において、自主的な学習を促すように、今後もこれまで以上に工夫をしていく。また、教員に積極的に図書のおすすめをお願いすることで、学習図書の充実にさらに努めたい。

1.概評

今年度の専攻科生は12名。昨年度に比べ、12項目すべてにおいて、全体平均より学科平均が高くなっている。これは、食物科学科最後の学生であることを教員も意識して、有終の美を飾れるように指導を重ねてきたこと、さらに少人数での教育が効を奏し、学生の意識の高揚へと繋がった結果ではないかと思われる。

後期専攻科での開設科目は10科目、うち必修科目は5科目で、その科目についてFDを実施し、その科目を中心に報告する。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	0	1	10	0	[学生] 出席状況、授業への取り組みはとても良好で、いずれも前期より0.2ポイント高くなっており、学生が真面目に取り組んでいることがわかる。 自主的学習においても、前期より、0.3ポイント高くなっている。特に、演習科目において積極的に取り組んでいたことが伺える。
2	4.1	0	0	0	0	7	4	
3	4.3	0	0	0	0	0	11	
4	3.7	0	0	1	5	1	4	
5	4.0	0	0	0	1	5	5	[授業[内容]] 専攻科で開設した科目について、学生の理解度はとても良好で、全体平均を上回っている。学生の得手不得手や理解力の差も大きいですが、少人数故の個々人への対応など、授業担当者の配慮が伺える。
6	3.9	0	0	0	3	4	4	
7	4.0	0	0	0	3	3	5	[授業[教え方等]] 必修科目でも12名という少人数授業の特徴を十分に生かし、教材、資料、PowerPoint等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、良好である。
8	4.2	0	0	0	1	3	7	
9	4.1	0	0	0	1	4	6	
10	4.0	0	0	0	1	2	8	
11	4.0	0	0	0	0	7	4	[環境・設備等] 概ね良好との評価を得た。12名で普通教室を使用しているため、スペース的にもロッカーの数も充分整っており、満足度が高いと思われる。
12	3.5	0	0	0	4	6	1	

### 3. 今後の方針

食物科学科は、22年度をもって閉科となる。

一人ひとりの教員が当学科で学び、得た教育手法を今後に生かしていきたいと思う。

1.概評

全体の評価は平均 3.86 で、おおむね良好と言えよう。どの項目の評価も、前回は下回るものはなかった。逆に、微増であるが、項目の 5、10、11、12 は 0.1 増、項目 4 は 0.2 増であった。授業の教え方等を問う項目の 7-10 は平均 3.95 と、かなり高い評価を得ているが、これに安心することなく、講義の充実を図っていききたい。自主学習ができているか否かを問う項目 4 の結果が、前回に比べれば 0.2 ポイント評価を上げているが、相変わらず 3.4 と他の項目と比べれば著しく低い評価である。自主性は、大学における勉学の成果を大きく左右する大切なファクターであるので、今後とも改善が図られねばならない最優先の課題である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	18	78	44	<p>[学生]</p> <p>出席状況の高評価(4.3)と、授業外の自主的な学習の低評価(3.4)は、ここしばらく変わらない傾向である。また、シラバスの利用と授業内の取り組みに関しては、おおむね良好と言える。</p> <p>授業外の自主的な学習がなされていないことは、項目 3 と相関関係にあり、講義に出席さえしていれば何とかなるという学生の学習態度の消極性の表れであると見做し得る。</p> <p>ともあれ、学生の自主性を増すために教員が一義的になすべきことは、抽象的な表現になり恐縮であるが、講義内容を充実させ、面白くて&lt;刺激的&gt;なものにすることであろう。</p>
2	3.8	0	0	0	18	90	32	
3	4.3	0	0	0	0	6	134	
4	3.4	0	0	7	85	38	10	
5	3.9	0	0	0	3	82	55	<p>[授業[内容]]</p> <p>おおむね良好。質問項目 6 と 7 の評価値の分布を比較すると、項目 6 は、3.5 ≤ 4 の割合が 72/140 と一番高いのに対し、項目 7 では、4 ≤ の割合が 77/140 と一番高い。この結果から、「教員の説明はかなり明快だが、その割に自分の理解が今一つである」と、学生が厳しく自己評価していると推測できよう。</p>
6	3.8	0	0	1	14	72	53	
7	4.0	0	0	0	16	47	77	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>[授業(教え方等)]に対する評価は、評価値の分布をみると、どの項目も、4 以上のポイントの、全体に占める割合は、43.6%から 61.4%で、前回と同様良好であると言える。この好評価から、学生が講義の仕方や講義内容にある程度満足していると推論できる。これは、教員の側からすれば喜ばしい結果であるが、この報告書の筆者の実感からは少し乖離しているように感じられる。</p>
8	4.0	0	0	0	9	45	86	
9	3.8	0	0	3	30	46	61	
10	4.0	0	0	0	13	46	81	
11	3.9	0	0	0	28	57	55	<p>[環境・設備等]</p> <p>前回同様遺憾ながら、項目 12 の評価は全体の項目の中で二番目に低い。新年度を迎えるにあたって、図書館の参考図書の実感を常勤教員、非常勤教員の別なく、訴えていきたい。</p>
12	3.6	0	0	0	42	93	5	

### 3. 今後の方針

- 人間文化学部において副専攻履修が推進されているが、一般教養としては、一般教養科目を副専攻科目に指定している学科と意思疎通を密にし、学生が一般教養科目を出来るだけスムーズに履修できるよう、短期、長期の両面から、カリキュラム編成に取り組んでいきたい。
- 導入授業が廃止され、シラバスが、一般教養科目に関しては、学生が登録科目を選択する際のほぼ唯一の手引きとなっているので、今後ともシラバスの整備、充実を図っていきたい。

1.概評

列挙された 12 項目は、それぞれ趣旨や内容が異なるので、十把一絡げにして、全項目の単純平均値を算出することには意味がないのだが、敢て「全体傾向の時間変化」をこの指標で見ると、2009 年度前期は 4.1、後期は 4.2 弱、2010 年度前期は 4.1 弱で今期が 4.1 強となった。教職科目の授業は、「職業としての教師」を求める学生は少数派ではあるものの、教員免許状を取得するという明確な意志を持った、一定以上の成績の学生が対象になっているため、「概ね良好」であり、またそうでなければならない。授業者も、「なんとか教師に育てたい」との思いが強いことと、極めて熱意に溢れた非常勤教員に負うところも大である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.1	0	0	1	0	9	19	<p>[学生]</p> <p>評点が3に満たないものは、全体で 2 か所に過ぎないが、それがいずれもこのカテゴリーにある。「シラバス」と「自主的学習」は、これまでもこの授業改善アンケートの結果も踏まえ留意してきた。平均値は上昇しながら、低い評価が散見されたことは残念である。</p> <p>シラバスは、教員間のばらつきも次第に小さくなり、授業のグランドデザインと各回の詳細が示されているものが多いので、活用価値を学生も認識するようになってきたものと判断している。教師側が「手間暇を厭わず」「瑣事をも丁寧・丹念に」行うことの効果でもある。</p> <p>出席の傾向は問題ない。本学の制度上のこともあるが、授業の 30 分前には教室に入りテキストを読む姿も見られる。自主的な学習の促しは、今後も工夫をしていきたい。</p>
2	4.1	0	0	0	1	7	21	
3	4.5	0	0	0	0	2	27	
4	3.9	0	1	0	3	9	16	
5	4.1	0	0	0	2	5	22	<p>[授業[内容]]</p> <p>上述の内容とも重なるが、シラバスが「学生にとって分かりやすく、周到に書かれている」ことは、授業構成が周到にされていることと同義でもある。杓子定規に「シラバス通り」にはいかないが、大項目を掲げるだけではない計画であれば、かなりの状況想定も可能で、柔軟に対応できる。</p>
6	4.1	0	0	0	3	5	21	
7	4.2	0	0	0	6	2	21	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>このカテゴリーの評点平均が最も高く(4.23)出た。大学の授業は、卓越した学者による、内容の充実したものが求められるのは当然のことである。しかし、一方的であったり、聴く学生が理解できないものは、教育の場には不適切である。まして、教職科目は教師力を育むことを目指すものであり、大学の教師であっても「授業者のモデル」を示す必要がある。そうした観点からも、この評点が高いことには満足している。更に、学習のメディア活用やメディアとしての教師の役割などの実践的研究が求められているものと受け止め、一層の改善を図る。「授業公開」が本来的に機能すれば、このカテゴリーの向上にとって、大変有効なのにと惜しまれる。</p>
8	4.3	0	0	0	3	3	23	
9	4.2	0	0	0	3	7	18	
10	4.2	0	0	0	3	4	22	
11	4.2	0	0	0	0	5	24	<p>[環境・設備等]</p> <p>ほぼ毎回共通して指摘できるのが、「自主的学習」と並んで「図書館の充実」の低い評点である。教室環境などは、BEST とは言えなくとも BETTER の状態であり、授業に支障を来すことはない。図書館の文献は、様々な努力が払われているが、「時事的なもの」「パンフ的なもの」の欠如を学生は撞いているように思う。</p>
12	3.9	0	0	0	4	13	12	

### 3. 今後の方針

「概評」でも述べたが、教育はコミュニケーション(単に情報の交換を図るというレベルに留まることなく、相手を思いやる雰囲気の中での共有と分かち合い)であるので、教える者と学ぶ者とが、如何に、人間的に関わり・交わるかが重大なことである。今般の東日本大震災の現場の教師たちも、高邁な知識や技術によってではなく、「いつものように存在すること」「全身で抱きしめ、共感すること」「自分の思いに素直に、涙を流し、うろたえること」などによって、子どもたちの魂(心)の救済をしている。学問的、国際的な視点で教育の考究を深め、授業に還元することとともに、教職科目を担当する教師としての「人間力の研磨」にも努めていきたい。

1.概評

+0.1 が 4 項目, -0.1 が 3 項目, 全体として 0.1 ポイント上昇した. 大した変化ではないものの, 下降するよりはましであった.

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	0	18	73	64	37	[学生] 設問 1, 3, 4 は前期比-0.1, そのほかはおなじ. 総じて誤差の範囲である. AO と推薦入学者のなかには, 学習習慣が身につけていない学生もかなりいるようであるから, 入学者数を厳選しないと, 学生がわの学習態度が劇的に改善するのはむつかしい.
2	3.9	0	0	0	19	90	83	
3	4.2	0	0	0	1	43	148	
4	3.7	0	0	2	46	98	46	
5	3.8	0	0	2	24	98	68	[授業[内容]] 設問 6 は前期比+0.1. あまり変化はみられない.
6	3.8	0	0	9	34	83	66	
7	4.0	0	0	3	24	55	110	[授業[教え方等]] 設問 7, 8 が前期比+0.1. 教員に改善を呼びかけた成果か? 誤差の範囲という気もする.
8	4.1	0	0	1	13	52	126	
9	3.8	0	0	1	28	83	80	
10	3.9	0	0	3	27	75	87	
11	4.1	0	0	0	3	57	132	[環境・設備等] 設問 12 が前期比+0.1. 図書館に学習図書を常設した成果がわずかにあらわれたようである.
12	3.6	0	0	2	69	96	23	

### 3. 今後の方針

いままでどおり粛々と教育することを心がける。大学教育で要求される常識を、奇をてらうのではなく、普通におしえる。懸案だった少人数教育を今後ともすすめる。当面、1クラス20人の目標を実現するよう努力する。